

「ペテロの説教」

1. はじめに

- ・ペテロのメッセージの前にこのような事がありました。ペテロとヨハネは午後三時の祈りの時間に宮に上っていった。そこに生まれつき足の不自由な人が運ばれてきた。ペテロはこの人を癒された。それを見た人たちは驚き、一斉に駆け寄ってきた。
- ・ペテロの二回目のメッセージ。

2. 本文

- ・弁明

\* 弁明という言葉は私たち日本人にとってどんなイメージ、感情を与えますか。「ソクラテスの弁明」も参考になりますが、それよりもイスラエルの神、イエスキリストへの信仰の下での証です。

- ・12節「自分の力や敬虔さによって～したとっていますか。」
- ・15節「私たちはそのことの証人です。」
- ・16節「与えられた信仰がこの人を完全にしたのです。」
- ・17～23節：メッセージ
  - ・17節：あなたがたの無知のため。

\* 無知という言葉を考えて欲しい。イエス様がルカの福音書の中で律法学者、パリサイ人に語るの「あなたがたは正義と神への愛をおろそかにしている。」のであって、「十分の一の献金」ではない。

- ・19節：悔い改めて（イエスを遣わしてくださる。）
- ・23節：そうでないと自分の民から断ち切られる。

\* ペテロは最初の説教によって3000人の悔い改める人たちを得ました。今日の展開はペテロ、ヨハネに対する迫害になっている。彼らの信仰告白は「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。」

3. まとめ

- ・私たちはこの個所から何を読み取ったらいいのだろうか。
- ・23節「その預言者に聞き従わないものはだれでも、自分の民から断ち切られる。」
- ・Iコリント15：58「ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っているのですから。」

\* 「自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っている」イエスに従う者たちの不思議な人生が始まる。しかしそれは「主にあって無駄でない、主にあって意味を持つ」人生でもある。